

オオタカ(タカ科) 大きさ オス50cm、メス56.5cm

渡り鳥の中継地として大事な湖沼の一つである、神宮寺の大浦沼。ここには多くの冬鳥たちが飛来します。

毎年10月に入ると次々とカモ類が渡って来ます。その中でもコガモは飛来時期が早く、上旬には数十羽の第一陣が到着。時には数百羽から千羽にも達するほどで、徐々に沼を埋め尽くします。

オオタカは、この時をじっと待っていたのでしょうか。ふらりと大浦沼に現れました。



大浦沼の側に繁る林から、コガモの群れを狙っていた。

天敵のオオタカを察知したコガモたち。ゴゴゴと羽音を響かせ、沼から一斉に飛び上がった。数百羽の群れが上下左右に大きなうねりとなり、上空を飛び交います。

オオタカが、コガモの群に突き刺さるように飛び込んでいった。群れの塊が真っ二つに割れると、再び一つとなるなど、命がけで生き延びようと必死です。



空中戦で射止めた餌を食る。



4年前には、ゴイサギの幼鳥を捕まえていました。

素早いスピードと急旋回を繰り返し追いかけるオオタカに、一羽が捕まってしまいました。
オオタカにとってコガモは重かったのでしょうか、近くの田んぼに降り周囲を警戒。邪魔するものがないのを確認し、獲物を貪ります。

コガモにとっては恐怖の猛禽類ですが、これも自然の摂理のなかに生きる命の循環なのです。



こちらは若鳥ですが、猛禽類特有の鋭い顔つきでした。



樹上からカモ類を狙っていたが、何も取らず飛び去った。

里山のシンボルとして宅地開発や道路建設など、開発の脅威から守ってきたオオタカ。
近年、オオタカの生息状況が増えてきたことが分かり、「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」から解除される政令改正が行われました。

豊かな自然環境の指標となってきたオオタカの生息地。

自治体による保護施策が、今後も後退することのないよう配慮すべきでしょう。



蓮の葉が覆いつくす穏やかな大浦沼も、秋になると一変します。



逃げ惑うコガモたち、オオタカが立ち去ると何事もなかったように元の水面に羽を休めます。